

西村 英理香

University of California San Francisco 新生児研究・小児循環器科

わたしは研究室での実習をメインに渡航しました。私の実習での目標は「将来自分で研究テーマを決定し自分で実験モデルを企画する上でコツとは何かを自分の目で確認すること」でした。世界的に有名な研究者はどのように自分でアイデアを思いつき、実験をすすめていくのだろう。少しでも自分で何かをつかみ取りたい、という気持ちで実習にのぞみました。このことを先生にお伝えすると、「それなら明日までに自分で何か考えてきてよ」というもので初日から面くらいました。そして自分なりに考えた案も一蹴されてしまい実習開始時はやっぴいけるのか不安でした。



しかしそれでも実験テーマが決まり、自分なりに調査・プレゼンテーションをし、実際に実験を行う中で、権威がある先生方と英語で意見を戦わせる経験は本当に貴重なものだったと思いました。研究メンバーの一員としてしっかりと自分の考えを隠すことなく伝えてそれを実験の結果で証明する中でやりがいを感じるとともに、自分のキャリアの中で必ず同じ場所に帰ってきたいと思いました。一方で英語能力や生化学的知識の不足を実感することもできたので、勉強のモチベーションもあがりました。

小児循環器はUCSFに存在する4つのキャンパスのうち最も大きなmission bay areaに存在し巨大な病院が軒並みそびえたっているような敷地にありました。留学前は「やっぱりアメリカの医療はきっと日本のものとは規模が違うにちがいない」と思いながら、実習にのぞみました。確かに、循環器のカンファレンスが外科・内科・麻酔科・専門ナースがそれぞれ意見をいいあい後期研修医のチュートリアルは医師同士の競争意識がかなり高いことに驚かされました。しかし、治療自体は日本のポ

リクリで見たものと特別大きな違いを感じず逆に新鮮な気持ちとなりました。

実習では小児循環器の知識も広がりましたが、医療スタッフと各国の医療事情についてどう考えているのかを話し合うことができたことが貴重な機会となったと思います。アクセスの意味ではどんどん「小さく」なる世界の中で、先進国が提供する医療レベルにさほどの違いが本当にあるのか、現地の研修医だけではなく教授陣の考えをきくことができ、自分は将来臨床で留学するよりは基礎研究で留学をしたいと改めて考えました。

